

2022年4月26日発行

22-17号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**ほんとうの自分**

今年のNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の１３人」は、豪族から後の鎌倉幕府第2代執権になる北条義時を主演として俳優の小栗旬氏が演じています。登場人物は、歴史上実在の人物ですが、脚本家の三谷幸喜氏によって、予測不能エンターテインメントのドラマになっていて、内容はいままでの人物像や、事実とは違うことも多いようです。しかし、ドラマだということで、それに対して批判する人もいず、毎週、放送されています。

このようにドラマや小説で描かれる人は、事実とは違っていても良いのですが、それがのちにまで大きな影響を与え、小説で描かれたほうが本物のように思われている場合があります。そのような創作の世界が生んだ「伝説」が独り歩きしている例として、坂本龍馬を取り上げている記事がありました。小説やドラマにより、幕末維新の時期に大活躍したというイメージが広まっており、人気が高い人物です。しかし実際には、「その知名度ほどには日本史に影響を与えていなかった」と言われています。それゆえ、教科書に名前を出すのをやめようとされたこともありました。（結局、ファンと称する方々が陳情を行うなどして、名前は残っています。）

司馬遼太郎氏の『竜馬がゆく』などの小説を読んで、「薩長同盟を締結できたのは龍馬がいたからだ」「大政奉還の立役者だった」と思い込んでいる人も多いようですが、司馬氏は小説の主人公と区別するために「龍馬」を「竜馬」と漢字を変えているように、史実とはちがっているということです。「薩長同盟」で龍馬が西郷に頼んで同盟の締結に尽力したというのは、ありえないことで、西郷はそのとき、藩の決定権を持つような位置にはいなかったそうです。大政奉還でも、龍馬はなにもしていないということです。明治維新のみならず、日本の歴史全体に龍馬はたいした影響を与えていないということです。もちろん、それで坂本龍馬が価値がなかったということではなく、実際には別のことをしていたと、歴史学者は語っているそうです。（4月7日日経ビジネス＜坂本龍馬の伝説はウソだらけ　「幕末に大活躍」は間違いだった＞より）

歴史上の人物だけではなく、現実に私たちは、「この人はこういう人」と見て、それで判断しています。「自分が正しく見てもらっていない、ほんとうの自分はそんな人間ではないのに」という思いになることはないでしょうか。外に出ると、すごく元気で明るい自分を演じているけれど、ひとりになると、ほんとうはだれにも理解されていないようで、すごく孤独で暗い思いになることがあるかもしれません。人の前には、絶対に出せない、あなたのその心の声を受け止めてほしいと思うことはありませんか。だれかに評価されることなく、あなたがあなたであることを感謝できるようになる道があります。そのことについて、お分かちしたいのです。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください